

会 議 録

平成 30 年度 第 1 回食育推進コンソーシアム会議

開催年月日・召集時刻 平成 30 年 5 月 29 日（火） 午後 3 時 00 分

開催場所 和光市保健センター2 階集団指導室

開 会 時 刻 午後 3 時 00 分

閉 会 時 刻 午後 4 時 00 分

出席委員

事務局

保健福祉部長	星野 裕司
保健福祉部次長兼健康保険医療課長	大野 孝治
地域包括ケア課長	阿部 剛
健康保険医療課長補佐	渡部 剛
健康保険医療課副主幹	
兼保健センター所長	牧田 いづみ
健康保険医療課統括主査	梶原 絵里
健康保険医療課管理栄養士	佐藤 由紀子
健康保険医療課管理栄養士	吉田 智子

欠席委員

備考

【庶務】
受付 前木場

発言者	会 議 内 容
司会	<p>本日は、お忙しい中、多数の方にご出席いただきましてありがとうございます。会議の開会に先立ち、本日、配布させていただいた資料のご確認をお願いします。</p> <p>平成30年度第1回食育推進コンソーシアム会議次第、出席者名簿、座席表、平成30年度第1回食育推進コンソーシアム会議資料、資料1 第三次和光市食育推進計画に基づく初年度取組、資料2 わこう食育推進店実施要領（案）、資料3 第二次健康わこう21計画・第三次和光市食育推進計画書を配付させていただいております。資料に不足がある方は挙手をお願いします。なお、本日は、会議録作成のため、録音を行っておりますが、会議録作成後に消去させていただきますのでご了承ください。</p> <p>それでは、只今より、平成30年度第1回食育推進コンソーシアム会議をはじめさせていただきます。本日、司会をつとめさせていただきます、保健センター所長 牧田と申します。どうぞよろしくお願いたします。それでは次第に従いまして進行させていただきます。</p> <p>会議の開催にあたりまして、保健福祉部長よりご挨拶をさせていただきます。星野部長、よろしくお願いたします。</p>
星野部長	<p>皆様こんにちは。私は、4月から保健福祉部長に就任いたしました星野裕司と申します。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>私、前任は教育委員会の教育部長で、2年間そちらの方で子どもの食育について色々関わらせていただいております。子どもたちに対して、特に小学校の時から、食べることの大切さ、何を食べるか、そしてどのようにどういったものをどの時間で食べるか、というのが非常に大切だということを、学校教育の中でも学校長と教育委員会とで色々協力しながら考えてきたところです。生きていて毎日楽しく過ごしていきたい、これは私たちの人間の望みです。そういった中で、これらのためには、まず健康で元気でエネルギーに満ちた体を作ることが必要だと思います。そこに至るためには3つの要素と課題があります。</p> <p>第1には「食」です。いつ、何をどのように、どのくらい食べたらいいのか、私自身もこの「食」には非常に興味を持っておりまして、10年以上前から、うちの朝食は必ずひとりずつキャベツの千切りの大盛りなんです。最初の頃は妻はなぜこんなにキャベツの大盛りを食べさせるのかと思いました。今は10年以上食べてますので、「今日はキャベツが少ないんじゃないの？」というように体が慣れて、キャベツの上にわかめを乗せたり、ドレッシングはうちではマヨネーズはほとんど使いません。お酢とオイルと少しの塩とコショウが入ってい</p>

るくらいで自家製なのです。いつも妻はそのレシピでドレッシングを作って冷蔵庫にしまっているんですけど、なんというかその酸っぱさで食べているという感じです。そして私はウォーキングもしていますが、それでスマートでいられるのかなと思っています。このキャベツは、もちろん一番いいのは近隣の農家さんでもらえるのがいいんですが、なかなかそうはいきませんので、とにかく新鮮なキャベツをスーパーで買ってきて、そういうのが冷蔵庫の中にごろごろと保管してあります。

第2には「運動」です。この運動が健康を維持するために必要だと考えます。昨年、NHKスペシャルシリーズ人体というのを皆様はご覧になりましたでしょうか。その番組の中では、運動はもちろん大事なんですが、骨が作るホルモン、これが人体には大切な関わりがあるというような内容でした。そのホルモンがこの健康寿命を若返りのホルモンを作っているということですよね。今までは脳からすべての司令塔が出ていると思っていたんですけど、実は骨が伝達機能として役立っていた、そのホルモンを作っていたのは骨だったらしいんですね。そういうのを聞きまして、びっくりしました。運動で骨を鍛えるということなんですが、そこでやったのは、かかと落としとか、10cmくらいの段からぼんとかかかとから落ちて、ひざのクッションでやわらげながら落ちるというのを50回くらい毎日繰り返すといいかウォーキングが有効だと放送されていました。

第3には、「睡眠」です。何時間寝るのがいいのか、6時間で本当によいのか、8時間半がいいとか色々ありますが、いい睡眠をどのようにとるかというのは私達の本当の課題だと思っております。寝る前にスマホを見るとなかなか眠れなくなるということもあります。

「睡眠負債」と新聞、テレビでも言われておりますが、「睡眠負債」を貯めないように毎日生活することが大事かなと思っております。皆さんはいかがでしょう。実践できていますでしょうか。

今日配布している、健康わこう21計画書の中の27ページ、国民健康保険被保険者の概況に記されているとおり、現在、和光市民の疾病分類別の入院医療費の割合で1番多いのは、循環器系の疾患です。狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、大動脈瘤などですね。2番目には悪性新生物です。これは肺がん、前立腺がん、膀胱がんなどですね。

通院医療費では、1番割合の多いのが糖尿病、2番目に高血圧症となっています。和光市でのデータなんですけれども、これらは生活習慣病と言われ、私たちの日頃からの食生活、運動、睡眠から十分に改善できるものと言われております。健康な時にはなかなか本人には気付きにくいものです。病気になってから生活習慣がどんなに大切なものだったと気づき、しかしその病気になってからでは遅いので、そうな

	<p>る前に気付いて、皆様にその点を広報していきたいというのがございます。</p> <p>今回和光市では、第二次健康わこう21計画と第三次和光市食育推進計画を平成29年度に皆様のお力で策定させていただきました。これをどう実践していくかは皆様の手にかかっています。この2つの計画は10年計画ですので、初年度の今年から様々な形で皆様のそれぞれの役割、お立場の中で、市民一人ひとりのために健康で長生きできるような体を作れるように実践していただきたいと思います。</p> <p>本日の議題は次第に書かれている通りとなっております。慎重なご審議をお願い申しあげます。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>本日は、平成30年度第1回目の会議になりますので、ここで代表者の変更で本日初めてご出席になる方についてご紹介申し上げます。</p> <p>和光市農業後継者倶楽部 井口様 わこう暮らしの生き生きサービスプラザ 高梨様 すてっぷ 中山様</p> <p>また、新規参加にあたって、ご参加いただいています セブンイレブン・ジャパン 山本様、金子様</p> <p>少々遅れておりますが、リンガーハット 西村様が後でお見えになります。本日はどうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきます。本日は、第三次食育推進計画を踏まえた具体的な取組について協議を進めてまいります。</p> <p>はじめに、第三次食育推進計画の概要について、担当よりご説明申し上げます。</p>
事務局 (佐藤)	<p>保健センターの佐藤と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>このたび第三次食育推進計画を策定いたしました。私からは、その趣旨とコンソーシアム会議の役割を確認した上で、今年度の取組として、①わこう食育推進店（認定マーク）、②普及イベントの実施について、ご説明いたします。</p> <p>まず、第三次和光市食育推進計画の概要につきましてご説明いたします。こちらのスクリーンで説明させていただきます。皆様のお手元にお配りいたしました資料1はスクリーンと同一の内容となっております。まず資料の2Pをご覧ください。</p> <p>こちらの図は、国民健康保険の高額な医療費の割合を通院、入院別で示したのですが、通院では、糖尿病、高血圧、腎不全、脂質異常症といった生活習慣病の割合が高く、医療費を削減させるため、生活習慣病の予防は必然的に重要となってきます。</p>

また入院では、脳血管疾患、脳出血、脳梗塞、肺がんが急増しており、脳梗塞の状況をみると、下の図ですが、H24年度からH28年度の5年間で約1.5倍に増加しています。さらにこの平成28年度の37人のうち、17人、約半分の方は今回再発だったことが別データからわかっています。

また、通院、入院ともに透析の医療費が占める割合が高いことがわかります。以上より、脳梗塞の発症・再発予防や糖尿病からの透析への重症化の予防する取組が必要になってきます。

次に3Pをご覧ください。

こちらは年齢別の医療費の割合です。40～50歳代は4～5%の割合ですが、60歳頃から急激に上昇カーブを描いています。病気になる前、現役世代といった早期からの予防が重要です。

次に4Pをご覧ください。

以上の現状と課題を踏まえまして、和光市では食を切り口とした健康づくりを担うものとして食育を位置付けています。健康わこう21計画と食育推進計画の理念と方針につきましては、4Pに記載しているとおりです。食育推進計画の方針の①、②は、健康わこう21計画と同様の考え方で、自己健康管理の普及によって、予防に重点を置いた食育コンソを推進していくというものです。また③に関しては、健康度別、ライフステージ別に施策を展開していくという内容になっています。それから、公民協働の取組として食育コンソーシアム会議を通じて、施策を地域の中でも推進していくというのが④、健康づくりという視点のもとで食文化の継承や地産地消を推進するというのが⑤です。

次に資料5Pをご覧ください。こちらの図は、縦軸にライフステージ、横軸に個人の健康度をとり、それぞれに応じた施策を示しています。

発達・成長に応じた支援が必要な「乳幼児期・学齢期」においては、わこう版ネウボラと連動した栄養支援、学校・保育園等での食育推進事業など、きちんとした食事がとれるような啓発を実施します。

また青年期以降につきましては、健康維持だけでなく生活習慣病予防といった観点から、発症予防や重症化予防をしていきますので、いわゆるメタボ健診に基づく栄養マネジメントを実施していきます。

次に6Pをご覧ください。食育推進計画の目標ですが、食生活改善に関連する指標としては、こちらに掲げているとおりです。

①の主食・主菜・副菜のバランスをとるといったところでは、特に副菜は、1日350g以上野菜が必要ですが、足りていないのが現状です。また、②の食塩摂取量も男性8g、女性7gが目標とされていますが、摂りすぎているのが現状です。

こういった目標達成するには、毎食野菜を食べる必要がある、1回の食事で5g、6gの塩分をとってしまっただけでは目標の達成は非常に難しいということがあります。したがって外食や惣菜のときであっても、野菜が食べられる、また、塩分を控えらるる食環境が求められています。

食の外部化が進むなかで、外食や惣菜に求められる要素はおいしさ、早さ、安さなど色々ありますが、健康を求める人、また高齢化に伴って減塩減糖が必要な人が確実に増えています。

先ほど5Pでお話しした通り、市では、健康度、ライフステージごとの施策を実施していきませんが、やはり行政の力だけでは限界があります。そこでこのコンソーシアム会議を通じて、地域の中でも健康に気をつけた食事がとれるような食環境づくりを、公民協働で実施することにより、より実効性を高めていきます。その結果として、生活習慣病やその重症化を予防し、医療費・介護費の適正化にも寄与していくということがこの食育コンソーシアムの目的になります。

ここまでの食育推進計画の趣旨説明になります。前回の会議でもお話しした内容になりますが、ここまでのところでご質問等ありますでしょうか？

特にないようでしたら、引き続き、計画に基づく今年度の取組について説明させていただきます。

資料7Pをご覧ください。内容はこのあとご説明いたしますが、各店舗での認定マーク・情報発信に関しては「わこう食育推進店」という形で、特定健診がスタートする7月からの開始を目途に、準備を進めていきます。また、11月には、一斉PRの場として、市民まつり、健康フェアを活用したイベントの実施を予定しています。

はじめに、「わこう食育推進店」の普及促進についてご説明いたします。資料9Pをご覧ください。

先ほど申し上げたとおり、各店舗での認定マーク・情報発信に関しては「わこう食育推進店」という形で実施していきます。スライドは、お手元の資料2「わこう食育推進店実施要領（案）」の概要となっています。

目的ですが、食環境づくりを進め、市民の食生活改善を図ることを目的に、健康に配慮したメニューや健康情報を提供する店舗等を「わこう食育推進店」として登録し、地域全体でPRしていくというものです。認定マークの交付対象は、この食育コンソーシアム会議に参加していることを前提に、飲食関連の事業者とさせていただきます。

次に10Pをご覧ください。

登録手続きとしては、①まず皆様から登録をお申し出いただく、②事務局が内容を確認する、③④承認された場合、お店側は店頭で認定

マークを表示する、また市は登録内容を公表する、相談支援事業の方々にも情報提供しますので、各支援の中でも案内する、ということで実施していきます。

スケジュールとしては、6月中旬までにご応募いただき、順次個別の調整を行い、特定健診が開始する7月を目途にスタートできればと考えています。なお、新規参加店、新商品については、随時登録を受け付けていきます。

次に11Pをご覧ください。

こちらの表は、登録要件を示しています。登録区分を、①ヘルシー商品②ヘルシーメニュー③ヘルシーサービス④健康情報の4つに分け、①～④について、ア～エ、いずれかの基準の1つ以上実施している場合、減塩、減糖、野菜たっぷりなど、該当の認定マークを交付します。例えば従来の商品より30%塩分をカットしているようなたらこが販売されている場合、減塩商品の塩分25%以上カットに該当するということでこのような減塩のヘルシー商品のマークをつけることが出来ます。また、定食・お弁当のところだと、例えば主食・主菜がそろっている、1食あたり500～700kcal、野菜を120g以上使っているというところに要件を満たす場合には、バランスメニューという認定マークを交付いたします。

次に12Pをご覧ください。

すでに実施をされている取組を事例に挙げていきますと、登録区分の①、惣菜や食品といったところで、例えば、市内スーパーのイトーヨーカドーさん、いなげやさんでは、昨年度はこのような旧マークを使って実施をしていただいていたのですが、どういった点がおすすめおすすめるのかというのが分かるような形で、新しいマークの表示に向けて準備を進めています。

また、前回会議で手を挙げていただいた農業後継者倶楽部さんでは、先週末開催された緑化まつりの中で、このように認定マークを活用した和光市産野菜の販売提供が行われました。地産地消のマークを商品の見えやすいところに掲示していただく、また和光の食育に協力されているということを通のぼり旗を目印にPRしていただくということにご協力いただきました。

次に13Pをご覧ください。

④健康情報については、昨年度からイトーヨーカドーさんですでに実施していただいているレシピ提案、食育チラシの配布等が挙げられます。

また今年度から、新たにコンビニ等でスタートしていく組合せ提案、買い方プログラムなどが含まれます。減塩・減糖、バランスのよい食事といっても何をどのくらい食べればよいか分からない方に対

	<p>して、1食あたりで提案していくものです。</p> <p>次に14Pをご覧ください。</p> <p>周知方法ですが、紙面・WEBによる周知として、こちらは広報わこの6月号になりますが、食育推進店に関することを広報やホームページに掲載するなど、市としても積極的に周知していきます。</p> <p>また各拠点での直接的な周知の方法として、店舗の方では、認定マーク、「けんこう大使わこうっち」を目印として市民に印象付けをしていただきたいと考えております。また保健センターや相談支援機関では、相談を受け付ける、事業の中で情報提供するなど、利用者に対して積極的に情報提供していただきたいと思います。</p> <p>さらに、全体でのPRとして、普及イベントを実施するというところで地域ぐるみで周知を行っていきます。</p> <p>次に15Pをご覧ください。</p> <p>これら取組を進めていくにあたっての指標ですが、長期的には先ほどお示した計画の目標達成に向けて実施していきますが、まずは3年後の計画見直しに向けて、食育推進店やヘルシー商品の登録数、利用者数、コンソーシアム会議の参加者数、といったところを食環境づくりの進捗をはかる指標としていきたいと思っております。</p> <p>市では、健康度、ライフステージごとに応じて市民が食品を選ぶ力を育むということをやっていきまして、市民が関心を持ち、健康に配慮したものが選ばれる、需要が上がることで提供数があがっていく、市民・経営者の意識が変わる、最終的には提供されるすべての商品が健康に配慮したものになる、減塩減糖が当たり前になるということをめざして、理念にも掲げた「健康社会の実現」に向けて取り組んでいきます。以上です。</p>
司会	<p>担当の方から説明がありましたが、この内容についてご意見・ご感想・ご質問がありましたらお願いいたします。</p>
ぽけっとステーション山口	<p>ぽけっとステーションの山口です。</p> <p>いくつかお聞かせいただきたいのですが、10Pで登録数というのは、今会議に出ている人ということから、今後色々な他の事業者さんにも声をかけてということによろしいでしょうか。</p>
事務局(佐藤)	<p>はい。</p>
ぽけっとステーション山口	<p>それと、減塩・減糖ということで、去年からお話はしていたんですが、基本減らしていいのかということになると、必要量はとらなければいけないので、そこはちょっと履き違えてもらいたくないというこ</p>

事務局 (佐藤)	<p>とと、減糖の食品とかも色々あるんですが、減糖する代わりに添加物が足されているという食品もいっぱいあるので、お子さんにとっても成人にとっても良くないものなので、とり過ぎないように、そういう風に目を向けないようにしていったほうがいいのかなどというのと、糖質オフとかも、なぜ糖質オフなのかという意味を分からないで減らしている方もいらっしゃるので、基本的に健康な食事のとり方というものも訴えつつやる方がいいのではないかなと思います。</p> <p>ありがとうございます。おっしゃるとおり、バランスよく食べるというところを基本、大前提にしまして、あとは選び方というところについては、保健センターをはじめ相談支援機関を通じて、市民の方にはきちんと説明をしていくということと一緒にやっていきたいと思っています。</p> <p>それから、登録基準のところ、例えば塩分カット、糖質カットとありますが、実際に要領では、甘味料やカリウム塩のようなものを使っての減塩減糖については控えるという記載をしており、添加物は使用しないものということにさせていただいております。そのところは事業者の皆様にもご理解をさせていただいた上で、マーク認定にあたっては慎重に進めていきたいと思っています。</p>
司会	<p>他にございますか。では、食育推進店として実施していただく、認定マークを今後店舗等でご協力、すでに実施している店舗等にご感想ご意見をいただきたいと思っています。いなげやさんいかがでしょうか。</p>
いなげや酒巻	<p>いなげや店長の酒巻と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>健康応援商品というラベルを頂いて、減塩とか糖質オフの商品にこの写真のようにラベルを入れているんですが、完全にはついていなくて、自分で選んでここがいいかなというところに付けています。やはり消費者の方には認知はされていないというか、もちろんそれが健康応援商品だということは分かるんでしょうけれど、それがお店の方で勝手に付けている現状がありますから、その基準もメーカーの方で書いてある糖質カットという表示で私どもが選びましたから、こういった基準が今までなかったのも、こういった基準があつて、商品も認定されたものというか、これなら妥当だなという商品でつけていけば、むやみに商品に付けるということもなくなると思います。お店としていえば、不特定多数の方、毎日 2500 人近くいらっしゃるわけですので、やっていただきたいと私が思うことは、こういったことを普及する何かチラシであったり、先ほどのレシピじゃないですけど、そういったものがサッカー台とかに置かれて、認知された上で、その商品が、</p>

	<p>これだねと手に取っていただく、例えば栄養バランス弁当とかあるんですがそういった基準を満たしていく商品に、これが和光市が推進している商品なのね、というのが分かれば、相乗効果でその認定マークの商品認知も高まるでしょうし、もしかしたら買う商品も、今まで普通のうどんを買っていたのが糖質オフのうどんに変わるということもあるかもしれませんので、その辺の認知の普及について、何か良い方法があるとよいと思います。もちろん資料に書いてある方法として、広報の紙面もやっていただくと書いてありますが、お店としてはお店に来るお客様がそう認知していただく媒体のものがもっと普及していただくと、相乗効果というか、お客様が理解したうえでその商品を選ぶといった流れになっていくと思います。そういう方向性、お客様の認知が高まるようなPRがしていただけて、なおかつお店でも推進できればと思います。</p>
事務局 (佐藤)	<p>ありがとうございます。周知に関しましては、昨年度始まって9月にこの会を発足しまして、そのあと始まって数ヶ月の期間だったので、まだまだ市民への周知には至っていないというところもあるんですが、今後、広報なりホームページというところに加えて、今まで保健センターを中心に周知を行っていたところを、会議に参加していただいている各拠点、皆様に周知をしていただきたいと思います。それ以外にも周知の方法ですとか、そういったところの部分についてもご提案いただきながら、地域全体でやっていくということで浸透していけたらと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
司会	<p>あと、スクリーンの方でも紹介がありましたが、緑化まつりの方で、農業後継者倶楽部さんに認定マークを使つての周知の方をご協力いただきましたので、何か一言ご感想等ございましたらお願いします。</p>
農業後継者倶楽部 井口	<p>後継者倶楽部の井口です。マークのデータを頂きまして、ある程度オリジナルに基づいて加工を施しました。さっき写真もあったんですが、A3とA4の2通り作って前に出しているんですが、今回売り場が広がったので枚数が足りなかったんです。もうちょっとインパクトのあるものをもっとたくさん作って、お客さんは、最初に値札を見てしまうので、もっと上のほうに付けようかなとか、一度やると色々改善点も見えてきまして、テントの上のほうに途中で付け替えてみたりとか色々やってみたんですけど、お客さんからすると値札のあたりに新しく作ろうかなとかそんな風に考えたりしました。次の市民まつりの時にはうまくやろうかなと思っています。よろしく願いいたします。</p>

司会	<p>ありがとうございます。続きまして、お弁当やお惣菜、食品を販売されています、ひまわりさんいかがでしょうか。今後実施に向けて、該当の商品がありそうだとか、そういったところで結構です。</p>
ひまわり 石田	<p>ひまわりの石田です。うちもほとんど地産地消の野菜を使ったお惣菜が主なので、是非これは使ってみたいなと思っております。ウェルカム事業の方でも毎回利用者さまに最後 15 分間だけ食育の時間をとって、皆さんにその時採れた旬の和光のお野菜を使った簡単なお料理を紹介させてもらってます。その時もほとんど調味料は使わず電子レンジで加熱だったり、オーブンで焼いたりとかしながら、簡単に出来るお料理を紹介させていただいていますので、そこでもそういうのが使えたら皆様にもコマースシャルが出来るのではないかと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。</p>
司会	<p>ありがとうございます。ほかにご意見ご感想等ございませんでしょうか。この認定マークを広く市民に周知していきましたら、相談支援機関の方でも、利用者や相談者に対して、栄養という視点も含めてどんどんご紹介していただければと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>では、要領をお示ししたんですが、この要領にしたがって、認定マークを推進していくということでもよろしいでしょうか。今後また登録等については、関連団体等と確認して進めていきたいと思えます。</p> <p>続きまして、今年度の取組、普及イベントについて担当よりご説明いたします。</p>
事務局 (佐藤)	<p>次に、普及イベントの実施についてご説明いたします。</p> <p>資料 17 P をご覧ください。今年度の大きな取組の 2 つめとして、食育の啓発、意識付けといった食育実践のきっかけづくりとすることを目的に、集客力のある市民まつりでの普及イベントの実施を予定しています。</p> <p>日時は、保健センター内で開催される健康フェアに合わせて、11 月 11 日（日）10 時～15 時の予定です。なお、今年は朝霞・志木・新座・和光 4 市合同の健診の受診率向上キャンペーンが同時に開催され、わこうっちをはじめ、4 市のけんこう大使が集結することになっています。保健センター内で実施する内容につきましては、展示や講座、料理デモンストレーションなどを考えていますけれども、皆様からも企画、アイデアを出していただき、次回以降の会議で決定してまいりたいと思えます。</p> <p>なお市民まつりでは、例年ブース出店されている団体等も多いこと</p>

	<p>から、今回農業後継者倶楽部さんが緑化まつりで実施していただいたように、各拠点が連動した食育のPRを行っていきたいと考えています。</p> <p>次に18Pをご覧ください。</p> <p>市では今年度から、健康マイレージ事業とって、「歩数や健康に関する市の健康事業に参加することでポイントがたまり、景品がもらえる」というような健康づくり事業を実施しています。食育のイベントに参加する、各団体のブースをまわってもらうことで健康マイレージのポイントを付与するというようなことも検討していますので、企画・運営については、ご意見等いただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、皆様の方でもご検討よろしく申し上げます。以上です。</p>
司会	<p>担当の方から説明がありました内容について、ご意見・ご感想・ご質問等ありましたらお願いします。</p> <p>ぽけっとステーション山口さんお願いします。</p>
ぽけっとステーション山口	<p>マイレージの取り組みの中で、歩く、歩数で稼ぐとということで、1万歩と出てたんですが、歩きすぎが心配されるんですが、その辺のコメントも入っているといいのかなと思いました。</p>
事務局	<p>このマイレージ事業ですが、市でやっている健康マイレージ事業、それから県でやっていく健康マイレージ事業、両方ありまして、埼玉県の方につきましては、単純に歩数に応じてポイントが付与されるような仕組みになっておりますけれども、和光市のマイレージ事業については歩数だけではなくて、市の事業に参加していただくというところにポイントの重きを置いています。お申し込みをされた方には、受付の際、歩きすぎについての注意点についてもご案内を差し上げているところですので、そここのところはそういった形で引き続き対応していきたいと思っています。</p>
司会	<p>ほかにいかかでしょうか。水澤さんお願いします。</p>
中央包括支援 水澤	<p>水澤です。マイレージのポイントがたまるというのは消費者にとってはメリットだと思うので、先ほどの登録、認定マークのお弁当を買えばポイントがつくとか、商品を買えばポイントがつくとかすると周知が進むのではないかなと思って、そういうカタログがあっても良いのかなと思いました。以上です。</p>

事務局 (佐藤)	<p>認定マーク商品を買ってポイント付与というところはぜひ事務局の方としましても実施をしていきたいところなんです、ただ現状ではマーク自体を商品そのものではなくて、商品ラベルのところに付けていただくというような形で実施をしておりますので、こういった形で対象商品を購入したことをはかっていくかということについて、店舗の方での手間ですとか、それぞれの店舗でやり方が違うということもありますので、その点を踏まえて調整をさせていただきながら今後は是非進めていきたいと思っております。その点についても良いアイデアがあればぜひお願いしたいと思います。</p>
中央包括支援 水澤	<p>お店側の負担というのは大変なので、例えば山崎パンのお皿を集めるように消費者がシールを貼っていくようにするのも良いのかなと思います。意識もつきますし。</p>
星野部長	<p>それを保健センターに持ってきてもらうというのも。</p>
中央包括支援 水澤	<p>そうですね。</p>
事務局 (佐藤)	<p>商品にシールを貼るといった作業が生じるので、どこまでお店側にもご対応をいただけるかという部分も含めて、実施に向けては調整が必要だと思っています。</p>
中央包括支援 水澤	<p>売り上げも伸びますよね。</p>
事務局 (佐藤)	<p>そうですね。認定マークの普及にもつながるので、方法について、今後事業者の皆様にもご相談させていただきたいと思っています。</p>
司会者	<p>他にございますか。市民まつりの方に毎年参加されている団体さん等もいますので、ご意見ご感想質問等いただければと思います。</p>
事務局 (佐藤)	<p>今回緑化まつりの方で農業後継者倶楽部さんがマークをひとつ目印に、PRをしていただいたりということをやってくくださったんですが、池田さんを始め出店されている団体にもお願いできないかというところを考えておりますが、いかかでしょうか。</p>
池田物産 池田	<p>ありがとうございます。うちもポップとか、何かを置くというのは出来ますので、お声掛けいただければ。 それで一応、出店ブースの大きさも限られているので、出来るか出来ないかは分からないんですが、減塩減糖という形の商品、うちの場合素材なので、すべての商品が減塩減糖に繋がる商品なんです、特</p>

<p>司会</p>	<p>にだしパックとか使いやすいもののコーナーで、これはおすすめの商品ですよという形も取ればやろうかと思っています。</p>
<p>ひまわり 石田</p>	<p>ひまわりさん、お願いします。</p> <p>毎年出店させていただいてまして、ここ数年は丸ごと和光市産の豚汁だったり、丸ごと和光市産のカレーだったりというネーミングで出せていただいていますので、皆さんから興味を持たれて、美味しいねとか言ってもらっています。特に11月の時期だと、豚汁かカレーが出るんですけど、大体豚汁か、けんちん汁とか、和光市の野菜しか入っていない、お豆腐も和光市の吹上産のを使ってますので、結構皆さんからそういう意味では、これもこれも全部和光でとれるんだということで、地産地消もかなり興味があるようです。今年もそういう形で、もしそれがポップで出来るのであれば私どもは全面的にその辺をバックアップしていきたいなと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございます。地産地消というところで、産業支援課さんの食育の取組み等で何かご協力いただけるところがあれば。</p>
<p>産業支援課 野口</p>	<p>産業支援課では今年度、都市農業ということで、都市農業が今後どうあるかという、都市農業振興計画を策定しております。その中で都市農業を少ないながらも残していこうということで、地産地消を産業振興計画の中では「わこ産わこ消」と言っております。これは第1回の会議でもやはり教育から始まる部分があると、和光の野菜を知ってもらうには教育が大きな鍵になるというのがありますので、やはり食育の計画方にも力を入れて、「わこ産わこ消」をどういう風に進めていくかの記載をしていこうかなと、引き続きこちらの会議と連携して計画策定を続けていきたいと思っています。以上です。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございます。そのほかございますでしょうか。</p> <p>それでは市全体に係るイベントについては市民まつりで実施していくという方向で進めたいと思います。今年度は、認定マーク、情報発信といったところを重点的に食育を推進していきたいと思いますので、ご協力お願いいたします。</p> <p>最後に、セブンイレブン和光新倉店様には昨年度からすでにご参加いただいておりますが、今年度はぜひ市内にある他の店舗においてもこの食育推進を展開できたらと考えています。本日ご出席していただいているセブンイレブン様から、今後のご協力について、ご発言お願いします。</p>

セブンイレブンジャパンの山本と申します。はじめまして、よろしく申し上げます。初めて参加させていただくということで何をしゃべろうかと、まだ和光市の保健センター様と具体的な連携を詰めているところなんです、弊社の方でやっている食に関する安心安全への取り組みをいうのをばっちりマッチングするような施策を社としてやり始めています。できるだけ宣伝にならないように資料を持ってきたんですが、ご紹介だけさせていただきたいと思います。

資料はホームページをそのままコピーしてきたものなんです、セブンイレブンジャパンはコンビニ弁当とかそういったこのフレーズを払拭したくて、資料一枚目の女性のイラストの下の「カラダへの思いこの手から」というマークがあるんですが、これが健康とか安心安全をフレーズにしたシールとして、食品に貼って、お客様に知らしめていこうという施策をやっています。セブンイレブンジャパンだけではなく、コンビニはもう、営利だけではなく、社会のインフラになっているという認識を持ち始めております。皆様、和光市様のお役に立てないと企業として未来永劫でやっていけないという考えが社内に入ってきております。そういったものもありまして、この会議に参加していただき「カラダへの思いこの手から」をアピールさせていただきたい、強いては市民の皆様の健康に繋がるのではないかという思いです。これはホームページに入っていくと「セブンのお惣菜やお弁当って何でおいしいの？」とあるんですが、資料2ページ目には、「野菜がこんなにシャキシャキなのってなんかあやしくない？」と、これはあやしくはないんですが、コールドチェーンといいまして、収穫してから販売するまで一定の低温を保って、冷たいまま移動させていって店舗で販売しているので、レタスのシャキシャキ感だったり、そういったものを実現している。それから先ほど出ましたが、合成保存料、着色料、時々話題になるトランス脂肪酸、トランス脂肪酸は低減ですけども、合成保存料、着色料は使っていないというのはすでに実施しています。これは他コンビニ様との違いというか、セブンイレブンは専用工場を持ってまして、それらが実現できているということになっています。

続いて、資料3ページ目が「カラダへの思いこの手から」ということで、この会議にあっているのかなという形で持ってまいりました。確か長野県が塩分を減塩して、長寿の県になった、ここにおられる皆さんは周知の事実でご存知だと思いますが、私ちょっと勉強したんですが、長野県では、減塩イコール野菜を取っているんですね。減塩というのはちょっとすぐには難しいので、野菜ならということで、商品部では、野菜の商品を取組んでいこうということで、資料4ページ目の上の方に「カロリーが気になるあなたへ」というところをクリック

していくと、何カロリーの商品がありますよとか出てきます。これはコンビニ商品は入れ代わりが早いんですが、その都度更新がされています。その右側に「野菜を食べたいあなたへ」ということがあります。ここをクリックしていただくと、野菜がたくさん食べられる商品に繋がっていきます。

5 ページ目でカロリーが気になるあなたへのところをクリックして進んでいただくと、200 カロリー以下の商品、下の方に「もち麦もちり！じゃこわかめおむすび」、もち麦というのは皆さんご存知だと思いますが、非常に食物繊維の多い麦でして、レタス一個分とその辺までちゃんと計算してつくっています。ということで、食に関して安全・健康志向を強めていくということです。

続いて、8 ページに「野菜を食べたいあなたへ」というのがあります。下の弁当のところ、1/2 日分の野菜が取れるという商品を揃えています。こういったものもコンビニ弁当なんですが、セブンイレブンジャパンと致しましては、やはり安心・安全・健康を目標にして、発売をはじめており、それは「カラダへの想いこの手から」を和光市保健センターの佐藤さんと何か連携が出来ないかとお話しをしているんですが、社として全国区の商品だから出来ないとかそんなことを言い出すと何も出来ないのもっときめ細かく連携していければということです。これは見本でいただいた白黒のプリントなんですが、これは野菜で、ヘルシー商品、野菜たっぷり、野菜商品たくさん取り揃えているので、そういったものを売り場に貼るだけで、ここに和光市様の表示がもっとアピールしていればと思ったんですが、分かるようにしていただければ、市とも連携しているのかというのが市民の中に伝わるのかなということで、今後継続した話し合いで進めさせていただきたいと思います。セブンイレブンからは以上になるんですが、コンビニですので、機動力はあると思っておりますので、出来ればここにいる皆さんのお知恵をぜひお借りしたいと思っております。以上です。

司会

ありがとうございました。スライドの中でもあったんですが、コンビニ等で買い方プログラム、組み合わせ提案というのも今後実践していきたいと思っております。セブンイレブン様とは今後調整をさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

このコンソーシアム会議は「食と健康」をキーワードにあらゆる分野・立場の方にお集まりいただいています。ここを機に横のつながりが生まれ、協働が多様に広がることを事務局としても期待しています。

和光ならではの食育の推進、市民の健康増進・疾病予防に向けて、長期的な視点で進めてまいりますので、引き続きご協力よろしく願いいたします。

また、わこう食育推進店登録にご協力いただける事業所様には申請書をお送りいたしますので、一度担当までご連絡ください。加えて、市民まつりでのイベントについても、ご検討をお願いいたします。なお、次回の会議開催は、8月頃を予定しております。後日、改めてご連絡させていただきます。

以上をもちまして、第1回会議を閉会いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございました。